

第 1 回 総合計画審議会議事録（概要）

1 開催日時 平成 20 年 4 月 22 日（火）
午後 4 時 30 分から午後 6 時 40 分

2 場 所 流山市役所 4 階委員会室

3 出席者（17 人） 敬称略

（1）審議会委員（委員の構成）

浅見泰司 （学識経験を有する者）
木下剛 （学識経験を有する者）
久保悌二郎 （学識経験を有する者）
加藤良則 （学識経験を有する者）
奥田富子 （教育委員会の委員）
大塚侃 （農業委員会の委員）
海老原新蔵 （公共的団体等の職員）
中山文男 （公共的団体等の職員）
山崎秀雄 （公共的団体等の職員）
田井慶一郎 （公共的団体等の職員）
新保國弘 （市民公益活動団体を代表する者）
山口文代 （市民公益活動団体を代表する者）
大澤信弘 （公募の市民）
石井主税 （公募の市民）
島田直幸 （公募の市民）
村瀬義夫 （公募の市民）
増岡信男 （公募の市民）

欠席委員（1 人）

内山久雄 （学識経験を有する者）

（2）出席職員等

市長 井崎義治	副市長 石原重雄
・ 案件関係職員	
企画財政部長	染谷郁
企画財政部次長兼企画政策課長	加藤正夫
企画財政部次長兼財政課長	菅原治
行政改革推進課長	遠藤幹夫
秘書広報課長	加茂満
企画政策課長補佐	水代富雄
行政改革推進課長補佐	増田恒夫
財政課長補佐	倉井操
秘書広報課長補佐	亀山隆弘

その他事務局職員（企画政策課）

室長 松井かづ子 主査 安井彰 主査 渋谷俊之

主査 大津真規
主事 鈴木新吾

主任主事 大塚 健
主事 青野 元

主任主事 富樫 聡

(3) 傍聴 なし

4 議 題 委嘱式

- (1) 流山市総合計画の概要について
- (2) 後期基本計画策定に関する基本方針（案）について

5 配付資料

- (1) 流山市総合計画（本編）
- (2) 下期5か年計画書
- (3) 実施計画書（平成20年度～21年度）
- (4) 総合計画の概要について
- (5) 後期基本計画策定に対する基本方針（案）
- (6) 流山市総合計画審議会委員名簿
- (7) 策定スケジュール

6 議事内容

【委嘱状交付】

- ・議長が決定していないので副市長が仮議長で進行

・議題

(1) 流山市総合計画の概要について

(2) 後期基本計画策定に関する基本方針(案)について

事務局説明

- ・条例に基づき、会長は互選で浅見委員が選任され、会長の職務代理は、会長の指名により増岡委員が選任された。

(浅見会長)

- ・事務局の説明内容について質問や意見、確認事項など発言を求めます。

(増岡委員)

- ・後期基本計画の策定に当たり市長の諮問の手続きはないのか。
- ・後期基本計画は、平成20年度と21年度の丸々2年間を掛けて策定すればよいのか。

(加藤企画政策課長)

- ・策定期間は、平成20年度と21年度の2か年となる。

(石原副市長)

- ・今回は、諮問答申ではなく意見聴取である。
- ・総合計画審議会は、20年の10月位に1期、21年の1月位に2期、その後、最終的に諮問答申としたい。
- ・庁内で基礎的な分析や行政評価の結果、総合計画の総括をするので、その途中経過を報告しながら審議を行っていただきたい。

(増岡委員)

- ・審議会が審議するのは後期10年の基本計画か確認したい。
- ・基本構想は、前提となる社会、経済情勢などが大きく変化し

その内容との間に乖離が生じた場合には見直すとしているが、見直しの必要性について事務局は、どう考えているか。

(浅見会長)

- ・方針として、20年、10年、5年、3年という4層の構想を20年、10年のあと3年、3年、4年という3層の実施計画とするフレームについて、意見を求めたい。

(石原副市長)

- ・基本構想の見直しについては、TXの開業は想定していたので、これだけで大きな情勢変化とは言えない。
- ・人口フレームについては、区画整理事業の進捗の遅れや少子化などの現状を踏まえて決定し、収入面の財政フレームを固めて、身の丈にあった現実的な計画としたいのが基本的な考え方である。

(浅見会長)

- ・事務局の基本方針案で良いか、計画に無いもの、プライオリティを付けたいものなど、案について意見を求めたい。
- ・大きな社会情勢の変更はないので、基本的には、基本構想に基づいて計画するという方針について、意見を求めたい。
- ・行政評価システムと連動した計画にして、成果指標や目標値など設定する。後期の計画では、少し具体的な目標像を明確にし、予算に反映していく仕組みを具体化するという事に意見を求めたい。
- ・成果指標とはどんなイメージを考えているのか。

(加藤企画政策課長)

- ・36の施策でひとつの大きな目標を立てるが、数値で立てられるものもあれば、行政の基本的な考え方としての文言の指標もある。審議会の知恵を借りながら示していきたい。

(遠藤行政改革推進課長)

- ・例えば「まちづくり達成度アンケート」で、目標を掲げて、市民がどのように評価しているか毎年調べており、これらも指標としたい。

(浅見会長)

- ・評価結果と予算に反映していく仕組みを具体化するというのは、どのような形で反映していく考えなのか。

(遠藤行政改革推進課長)

- ・各事業ごとの成果指標を元にして、事業に関連した課長を集めた施策主管課長会議で、様々な目標設定や評価を行い、優先度を決めて事業を選定する。今後10年間の新規事業についても、施策主管課長会議の中で優先度を決めて選定する。

(浅見会長)

- ・具体的に指標での評価は、進捗と社会のニーズの視点があるが、それらを加味して優先度の高いものから予算措置を重点的にしていくイメージなのか。

(染谷企画財政部長)

- ・例えば「まちづくり達成度アンケート」での市民の評価を指標として、その指標が変化した場合は、その原因を究明し、解決を図るため、次年度の予算に反映する方法を考えている。

(増岡委員)

- ・基本方針の「(3) 財政状況に即した計画」で、「財政状況に合致した有効性の高い事業選択を行う」とあるが、歳入の見通しを固めるといふのと合致するのか。
- ・「(4) 職員の参加」で「庁内に策定組織を設置するもの」とあるが、現在の企画財政部内にまたひとつ何か作るのか。
- ・「(5) 市民参加」で「多くの市民の声を反映させるために、効率的、効果的な市民参加の手法を取り入れる」とあるが、市民の声を反映させるのは良いが、判りやすい方法でデータ

を提供すべきである。

(染谷企画財政部長)

- ・今後の財政運営については、公債費比率あるいは経常収支比率を十分視野に入れた上で、歳入フレームの確実なものを決めて、それに合った歳出をするなど、歳入の身の丈にあった歳出需要を固めていく。

(加藤企画政策課長)

- ・庁内の策定体制では、部長クラスで組織する「計画策定会議」などを作り、計画策定を進めていく。
- ・分かりにくいという点では、広報やホームページ等を活用しながら、PRしていきたい。

(浅見会長)

- ・今の財政状況に即した計画という部分は、財政状況に合致した有効性の高い運営をするという方針を決めるのか、選択を行えるような仕組みを提案するのか、財政状況に合致するよう事業のプライオリティまで検討するのか、どこまで議論するのか。

(大澤委員)

- ・長期的な視点に立って推計した財政計画とあるが、自治体は、単年度予算で実施するので、長期計画についても実施段階で単年度毎に予算を組んでいく方法と、長期に渡る施策、計画であれば、予算措置も長期に渡って特別会計予算としていく方法があるが、事務局の考え方はどうか。

(加藤企画政策課長)

- ・財政フレームについては、基本計画の10年分の歳入のフレームの積算をし、単年毎の予算の反映は、実施計画の中で財政と連動して計画する。
- ・財政状況の議論は、審議会としての基本的な考えを提言いただければよい。

(浅見会長)

- ・考え方というのは、曖昧である。

(石原副市長)

- ・人口フレームを10年分、財政フレームも10年分、できれば特別会計も含めて歳入を固めて、収入の見通しを立てて、効率的に支出していくが、その中で優先事業を決めて、要望や審議会の意見を聞きながら計画を作っていく。

(染谷企画財政部長)

- ・一般会計、特別会計、企業会計の10か年の財政見通しの事務局案が確定したならば、前期計画の評価とともに審議会に提出し、審議いただく。

(久保委員)

- ・基本的なフレームの見直しの中間的な見通しは、いつ頃まとまるのか。

(加藤企画政策課長)

- ・人口フレームについては、6月中を目途に公表に向けて最終段階である。財政フレームについては、財政を中心に作業中で、8月中を目途に積算をしていきたい。

(浅見会長)

- ・第1回の審議の時には、示されると考えてよろしいか。

(加藤企画政策課長)

- ・提言が終って、第1回の審議の時には、人口フレームも財政フレームも示して、議論できると考えている。

(浅見会長)

- ・重点プロジェクトが6つ、緑と水辺、子供の未来、安心安全、健康維持、活力、市民の幸せなどキーワードだが、計画を考

える上で、このフレームについて、意見を求めたい。

(大澤委員)

- ・健康いきいきまちづくりで、命の問題を市として追加すべきと考えるが、先行きこれを増やすかどうか、事務局はどう考えるのか。

(石原副市長)

- ・命の問題、子育ての問題は、他に優先すべきだが、そういう議論をこの審議会ですていただきたい。その結果として重点プロジェクトの柱もこういう方が適切であるということであれば、積極的に提言をお願いしたい。

(加藤委員)

- ・前期の10年間で、どのような課題があったのか、課題があったら、次の回で示せるのか。
- ・行政評価システムとも関連するが、その課題を次の10年間で踏まえていくべきなのか、その課題とは別に基本構想の最初のものに基づいて、今後の10年間を考えていくのか、その辺りが見えてこない。
- ・流山市総合計画の中でも現状と課題と統計が古いので、最新データ、現状を示して頂きたい。

(浅見会長)

- ・前期の課題と現状について、意見を求めたい。

(加藤企画政策課長)

- ・後期基本計画を策定する前提として、前期の基本計画の総括をしなければならぬと認識している。その総括、評価は、8月頃までには作業を終らせて、財政、人口を同時に示したい。
- ・現在、総合計画に示している資料は、最新のデータでできるだけ設定していきたい。

(染谷企画財政部長)

- ・ 評価の単位は、総合計画の36本の施策毎として、10年間の振り返り、評価、現状と課題、次の基本計画に向けた解決策等を秋口までに行いたい。

(加藤委員)

- ・ 下期5か年計画の6本の重点プロジェクトを審議していく上では、審議会も課題を踏まえて細かく考えていくべきである。

(浅見会長)

- ・ 第1回の審議では、当然、課題を踏まえるが、次の5月の会議では、間に合わないので、課題を踏まえない形の審議となる。

(新保委員)

- ・ 36の施策の一番最初に生態系に配慮とあり、基本構想の将来都市像が豊かな自然や歴史環境を活かしとあるが、本気で考えているのか。
- ・ 自然と歴史と文化とあるが、それぞれ減るものなのか、増やせるものなのか、市として生態系の把握、調査をしていないが、基本的な考え方はどうか。
- ・ 桜やツツジなどの自然と生態系とどちらを重視するのか、議論をする上で確認したい。

(石原副市長)

- ・ 基本的なスタンスとして、自然の豊かさを守るのも育てるのも人々の力であり、気づきという点で、小学校にビオトープを配置したり、自然を大切にすることを小さい頃から養うなど、教育とか、行政の各般の中でそのような考え方を活かしていきたい。
- ・ おおたかの森は、市民の大きな力であれだけ大きな形として残ったが、将来に亘って守り育てて後世に継承していく緑・里山として、生態系に配慮していきたい。

- ・生態系を前面に出し過ぎると極論になるので、今ある自然を守り育てていきたい。例えば、グリーンチェーン戦略では、流山の生態系に合った高木を植えるなど、知恵を出し合って自然を守っていきたい。

(石井委員)

- ・前期の計画は、総花的に網羅されていて、審議会の限られた時間ですべてをチェックは出来ない。審議会では、まちづくりの方向性とか、プライオリティを高めるなど、戦略的なものに絞ってはどうか。

(石原副市長)

- ・6本の重点プロジェクトが具体的に戦略的なものと見ていただき、そこを中心に議論を深めて頂きたい。

(奥田委員)

- ・市民の意見を吸い上げるのがタウンミーティングとなっているが、どのような単位で、どの程度、行われるのか。

(加藤企画政策課長)

- ・タウンミーティングは、現状・課題の整理、基本方針の整理、まとめの3段階で各々の段階で2回ずつ位の開催を考えている。

(石原副市長)

- ・例えば中学生対象とか、女性対象とか、NPO法人の個別的な意見交換会とか、階層別あるいは多様な、手段で市民の意見が反映されるように努力をしたい。

(木下委員)

- ・総合計画の中で、自然、歴史ということを謳う以上、市全域の自然環境の実態調査のための予算措置をするべきである。
- ・人口が減っていくことは、自然や環境保全、保護のチャンス

であり、その辺のポリシーを計画で決めることが、魅力を高めて人口減少に歯止めを掛けることになる。

- ・人口が減ることに対して、減らないような措置を基本計画の中で明確に謳うのか、ほっておけば減るので、それに合わせて身の丈に合った計画を立てるのか、どちらなのか。

(石原副市長)

- ・緑豊かな街になるようにグリーンチェーン戦略を展開したり、人口の増加策として、T X 沿線整備を一生懸命やって努力している。身の丈にあった計画というのは、流山の歳入をきちっと計算して、借金を残さないように、過大な投資はしないという意味である。

(村瀬委員)

- ・基本方針の案について、気になるのは「(4) 職員の参加」と「(5) 市民参加」は、順番が逆ではないのか。
- ・市民が計画を見て、流山ってこういう街なんだ、こういうことをやろうとしているんだと、ぱっと分かるような形で事務局でまとめて頂きたい。

(石原副市長)

- ・順番については、他意がありませんので事務局と相談したい。
- ・分かりやすい計画を作っていきたい。立派な計画書を作るよりも、計画の結果、ひとつでも多くの流山の施策が前進して、市民満足度が高まる方が、価値が大きいと考える。

(浅見会長)

- ・予定時間を過ぎましたので、ご発言頂けなかった委員は、次回、優先的にご発言をお願いしたい。
- ・次回の審議会のスケジュールを事務局からお願いしたい。

(加藤企画政策課長)

- ・次回は、5月14日、午後4時30分から流山市役所で開催

予定である。今日の貴重な意見は、基本方針の中に反映させて、事前に資料を送り、第2回の審議会で議論を頂きたい。

(浅見会長)

それでは、第1回総合計画審議会を終わります。